

配当・株主優待制度について

■ 配当の状況

	年 間 配 当 金		
	第2四半期末	期 末	合 計
平成29年2月期	35円00銭	(※1) 17円50銭	52円50銭
平成28年5月期（ご参考）	25円00銭	40円00銭	65円00銭

注：平成28年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、平成29年2月期の年間配当金は、当該株式分割後の金額を記載しております。なお、平成28年5月期の年間配当金につきましても、当該株式分割後の株数で換算しております。

※1：平成29年2月期期末配当金につきましては、下半期が3か月となることを勘案した予想金額です。

■ 株主優待制度のご案内

所有株式数	贈 呈 額
100株以上	1,000円相当（年間 2,000円相当）
200株以上	2,000円相当（年間 4,000円相当）
1,000株以上	6,000円相当（年間 12,000円相当）
2,000株以上	12,000円相当（年間 24,000円相当）

注：平成29年2月期は、9か月決算となることから、同期末の株主様への贈呈額は、左記の半額相当とさせていただきます。

会社概要（平成28年11月末現在）

■ 株式の状況

株 主 名（上位10名）	所有株式数 （株）	持株比率 （%）
ハウス食品グループ本社株式会社	16,282,200	51.00
株式会社ベストライフ	1,056,200	3.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	971,500	3.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	802,300	2.51
株式会社トーカン	700,000	2.19
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	696,000	2.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	622,400	1.95
浜島 俊哉	240,700	0.75
JP MORGAN CHASE BANK 380634	233,600	0.73
シーピー化成株式会社	200,000	0.63

発行可能株式総数：
115,200,000株

発行済株式の総数：
31,926,000株
（自己株式503株を含む）

株主数：18,975名

■ 役 員

代表取締役社長	浜島 俊哉
専 務 取 締 役	河合 尚也
常 務 取 締 役	細野 修二 阪口 裕司 葛原 守
取 締 役	宮崎 龍夫 杉原 一繁 石黒 敬治 安達 史郎 大澤 善行（非常勤）
監査等委員である 取締役	山口 正弘 内藤 充（社外） 織田 幸二（社外）春馬 葉子（社外）

■ 所在地等

所在地	愛知県一宮市三ツ井六丁目12番23号
設 立	昭和57年7月1日
資本金	15億3百万円
従業員数	779名
店舗数	1,448店舗（海外を含む）

第35期 中間報告書

平成28年6月1日～平成28年11月30日 株式会社壺番屋（証券コード：7630）



株主の皆様へ

株式会社壺番屋
代表取締役社長 浜島 俊哉

拝啓 平素より格別のご支援とご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、当社は、平成28年11月末にて、第35期第2四半期を終了いたしましたので、その概要につきご報告申し上げます。

当第2四半期の連結業績の概要といたしまして、売上面は、既存店の売上高が、前年の水準を若干下回って推移しましたが、新規出店や外販事業での増収等によって微増収（前年同期比0.1%増）となりました。

利益面につきましては、食材等の仕入価格が上昇したものの、製造原価が生産量の増加や一部原材料の改良等により低減したこと、海外事業、外販事業が前年を上回ったことや、本部販管費が減少したこと等により営業利益増（同5.4%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期にあったタイの関連会社からの配当金がなくなったこと等の減益要因がありましたが、営業利益の増加や減損損失の減少等によって増益（同5.5%増）となりました。

売上高は4期連続で、営業利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は3期連続で、過去最高を更新いたしました。これも一重に、株主様をはじめ、関係各位のご支援とご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

なお、第35期につきましては、昨年8月に開催した第34期定時株主総会にて決議いただきましたとおり、平成29年2月末が決算期末となり、事業年度が9か月となりますので、お含みおきいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

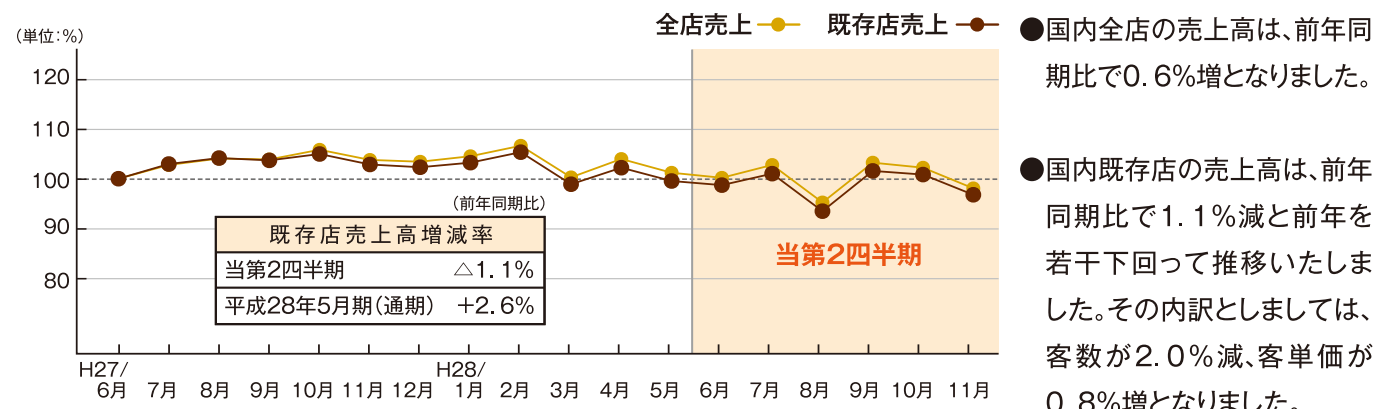
今後とも、当社は主力商品である「カレーライス」の商品力と接客サービスのレベルアップを図り、国内でのさらなる経営基盤の充実を図るとともに、世界に向けて日本のカレー文化を発信し、世界中にココイチファンを広げるべく事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

当第2四半期の営業の状況について

国内店舗売上の推移（前年同月比）



出退店の状況

		出店	退店	純増	店舗数
国内	CoCo壺番屋	5	1	4	1,242
	パスタ・デ・ココ	2	—	2	35
	麺屋ここいち	1	—	1	9
	につくい亭	—	—	—	3
	合 計	8	1	7	1,289
海 外 計		13	16	△3	159
総 合 計		21	17	4	1,448

●国内では7店舗の純増となりましたが、海外では、退店が多かったこと等により、3店舗の純減となりました。国内外の総合計では、4店舗の純増となりました。

●海外で退店が多かったのは、中国、台湾で、不採算店舗の退店をまとめて実施したこと等の一時的な要因によるものです。

事業ごとの取り組み

国内 CoCo 壺番屋



●「既存店の売上強化」を最重要課題に掲げ、QSCや利便性の向上を図る等、店舗の魅力を高める施策に取り組んでまいりました。

●期間限定メニューでは、「チキンと夏野菜カレー」が、3か月累計で194万食を販売し、ご好評いただきました。また、冬の定番メニューだった「スープカレー」を夏場に投入したり、動物性原材料を使用していない「ベジタリアンカレー」の導入店舗を増やしたりする等、新たな顧客層の開拓に注力しました。

（左上）チキンと夏野菜カレー
（右上）スープで食べるローストチキンと野菜のカレー
（下）ベジタリアンカレー（なす、ほうれん草、完熟トマト）

海外事業

海外国別店舗数



●店舗末端の売上は、香港、中国、マレーシアでは前年同期を下回ったものの、インドネシア、米国(本土)、シンガポールでは、前年同期を10％以上上回る等、全体として堅調に推移いたしました。

●マレーシアにつきましては、豚肉を使用していた既存の店舗を一旦閉店したため、平成28年11月末時点での出店はありませんでした。平成28年12月に豚肉を使用しない店舗を再出店しました。

外販事業

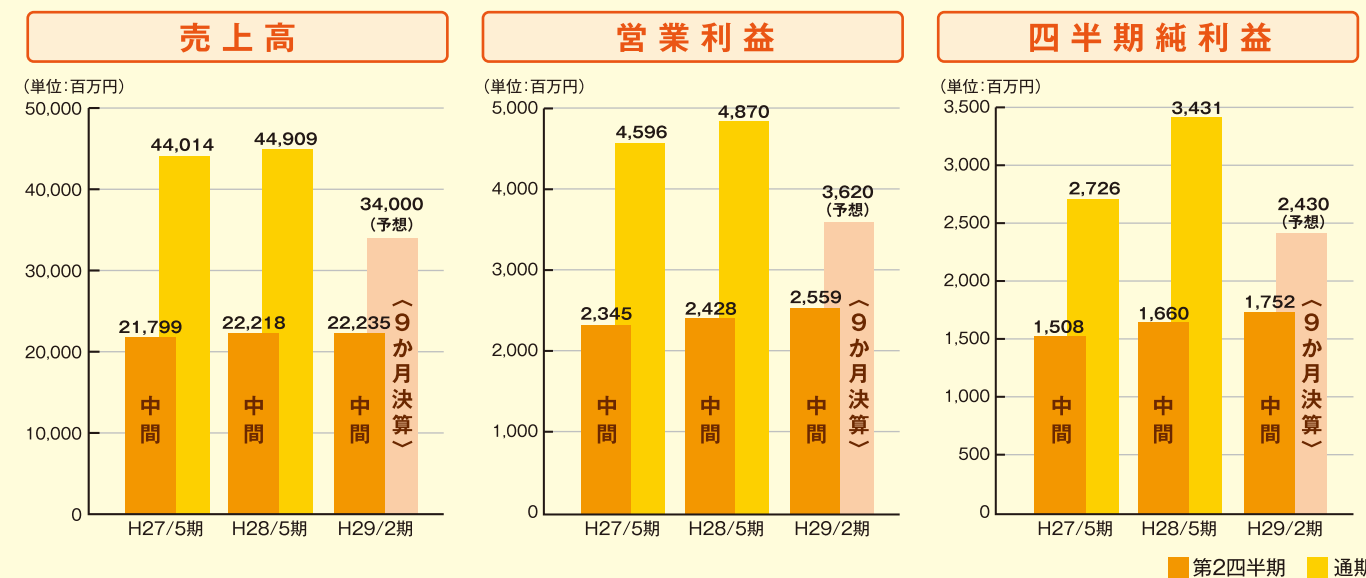


●外販事業では、「CoCo壺番屋」ブランドを活用した、カレー味のカップ麺や冷凍食品等を、食品メーカー様等と共同で開発したり、当社製品を販売したりしております。当第2四半期におきましては、合計47種類の商品が販売されました。

当第2四半期は、日本郵政グループ様向けのレトルトキーマカレーの販売が伸びました。

（左上）日本郵政グループ様向けキーマカレー／当社製品
（右上）カレー南蛮そば／エスコック株式会社様
（下）カレーチャーハン／株式会社ローソン様

当第2四半期の連結業績



※平成29年2月期は、9か月決算を勘案した現時点での予想値です。